

みどりのこころ

2022
秋号
No. 65

発行 長野県環境保全研究所
令和4年(2022年)9月20日

編集 長野県環境保全研究所 自然環境部(飯綱庁舎)
〒381-0075 長野市北郷 2054-120
TEL.026-239-1031 FAX.026-239-2929
E-mail:kanken-shizen@pref.nagano.lg.jp

8月初旬の朝5時30分、河川下流の河畔林で撮影されたオスのツキノワグマ (GPS 首輪を装着)

人里で暮らすツキノワグマ

信州のほぼ全域に生息するツキノワグマ。

山で、漆黒の毛皮をまとったその姿に出会った時の緊張感と感動は、他の野生動物にはないものだ。ときどきする心臓の鼓動と、「出会えた!」という喜びが入り交ざる。

この頃、クマは人里のすぐ近くで平然と暮らすようになっている。クマの行動は個体ごとに異なるが、伊那谷で調査しているクマの多くは、季節によって利用する標高を変え、人里やその周辺の山麓を利用する時期は主に夏だ。このようなクマの多くは、農作物に依存しておらず、被害を出しているのは一部のクマだ。

しかし、長期間同じ個体を追跡することで、ある年齢から急に農作物加害個体へと変化するクマのいることが分かってきた。例えば、ある2頭は個体追跡などから畑を利用しないことを把握していたが、それぞれ14歳と16歳になった年から、飼料用トウモロコシ畑に繰り返し現れるようになり、人里近くの利用も増えた。本来、クマは臆病で人を避けて行動する動物だ。経験豊富なこの2頭は、人に目撃されることはなく、人に見られる

か見られないかのギリギリの場所や時間帯を利用していた。このような行動を可能にしているのが、いたるところに広がる見通しの悪い「やぶ」である。

このような事例は他にも確認しているが、クマが安心して利用できる環境(樹林や藪)が存在し続ける限り、人里に近づくクマは減らないと実感している。前述のようなクマはなかなか捕まらないし、捕殺しても、環境そのものを変えなければクマには伝わらない。今夏、人里のクマの滞在場所を減らそうと、刈払作業を行っている。クマの滞在を減らすことができても、利用そのものを制限するのは難しい。人里で暮らし始めたクマの行動を変えるのは容易ではない。



文・写真 瀧井 暁子 たきい あきこ
信州大学山岳科学研究拠点 助教(特定雇用)
NPO 法人信州ツキノワグマ研究会

Contents

【巻頭言】人里で暮らすツキノワグマ(瀧井暁子/信州大学山岳科学研究拠点) …	1
【Information】信州の生物多様性の価値の共有から保全・活用へ …	2
信州の高山生態系は今 …	4
【信州自然ガイド】信越トレイル …	6
【こんなことやってるよ】霧ヶ峰自然保護センターリニューアル …	7

【Report】山と自然のサイエンスカフェ@信州 ハイブリッド …	8
親子環境講座 …	8
自然ふれあい講座「セミのぬけがらを採せ! 2022」 …	9
【適応センター通信】国民参加による気候変動情報収集・分析事業 …	10
【お知らせ】令和4年度イベント案内 …	12